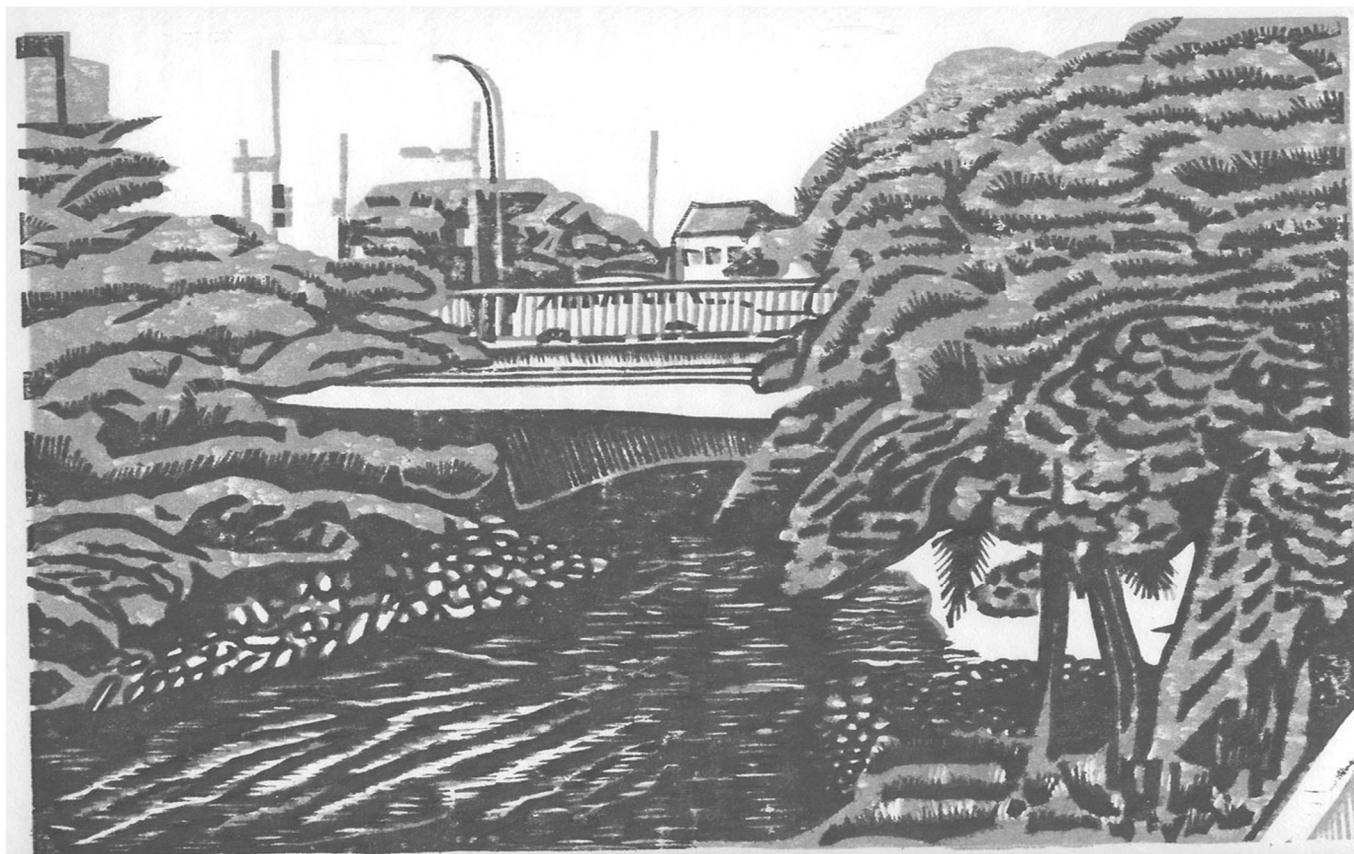


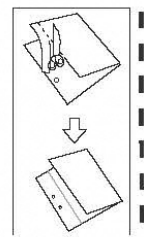
いたちかわらばん

通刊 95 号 颯川・狹川 / 川原番・瓦版 24 秋号



切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



【版画 宗森英夫 通刊 45 号の版画を再掲】 (下流からみた新橋) にひはし

鎌倉街道の往時を偲ぶ、栄区本郷の歴史

鎌倉街道とは鎌倉と各地とを結ぶ道路の総称です。いざ鎌倉の時、武士団は出立川の宿駅に参集したので。鎌倉三道の起点と考えられており、「にひはし(新橋)」の脇には石の道標があり「これより戸塚宿、弘明寺へ」と読み取ることが出来ます。その横には延命地藏尊があり鎌倉の生命線の三街道の分かれ道はこの辺りだったとみられています。

源頼朝が鎌倉に幕府を建てた理由は要害の地であること、経済的に幕府の糧秣(りょうまつ)を供給する山内本郷(現在の本郷台一帯)・公田の地名が残る通り平安時代には荘園として発展しており、刀や武器の鉄の生産が出来る鍛冶職人がいたことなど、経済と軍事の両面で最適な兵站基地であったためです。鎌倉の丑寅の鬼門にあたる守りの重要な位置でもありました。

源頼朝が奥州藤原氏の征伐に向かったのが中の道(中道)、別動隊は下の道(下道)、上の道(上道)は藤沢から戸塚経由で中の道に合流しているといった具合です。歴史に残る数多くの戦いに軍馬・荷車が慌しく行き交ったことでしょう。

中世の日本が鎌倉幕府に始まり、戦国時代、江戸時代、そして明治、大正、昭和に入り山内本郷には旧海軍第一燃料廠がありました。第二次世界大戦後はアメリカが接收し米軍PXになり、昭和40年代日本に返還されました。栄区いたち川の歴史探訪をお勧めします。(うめおきな)

参考図書 ※「栄区周辺の歴史」北條裕勝 著
※「栄の歴史」横浜市栄区役所

西本郷小学校での社会科報告

6月13日に西本郷小学校の4年生向けにいたち川OTASUKE隊の隊員がいたち川についての授業を行いました。時代の変化や人口の増加を背景として、何度かの河川工事を経て、現在の姿になるまでを当時の写真を交えて説明しました。子どもたちが普段から親しんでいるいたち川の話ということもあり、興味津々で聞いていました。

今回は、実際に授業を受けた子どもたちの感想を抜粋して、紹介します。

- ◎子どもたちが説明を聞いてわかったこと、思ったこと
- 昔のいたち川の様子を詳しく教えてもらえて、勉強になった。
 - いたち川の形状を変え水害を防いだり、植物や生物の生息場所を確保したりすることでいい影響があることがわかった。
 - 昔のいたち川は、川幅が狭く頻繁に洪水が起きていたことが分かった。また、水質も悪く環境も良くなかったことも分かった。

◎先生より
いたち川がこの町の発展に大きく関わってきたということを知れました。児童も興味を持って進んで学習に取り組み、「水害」について自助・共助・公助の視点で考えたり、話を聞いたりしました。

横浜市立西本郷小学校 教諭 北村 祐也

読者からのたより

94号を読んで多くの人が洪水に立ち向かい改修された河川を蘇らせるために努力されたことが良く分かりました。いたち川は長年の治水工事のあと綺麗な川に甦ってきたのですね、お助け隊の意識の高い努力から住民、教育から子供達に伝える自然環境の大切さ等を学んでいることです。四季折々の風景のなかで人々に潤いを与え、多様な動植物が生息し、洪水から免れてきたいたち川が素晴らしいです。
(茅ヶ崎市・金子)

昭和の時代にはいたち川の周辺は、洪水があったのですね。1976年の笠間交差点付近の写真には、洪水の様子が証拠として残っていて、今後も洪水がないとは言えないので注意が必要です。どうも有難うございました。(栄区・若林)

小生は毎日雨天以外は、ウォーキングをして、体力づくりというよりは、体力維持に頑張っています。かわらばん94号を拝見し、1ページの【進化は続くどこまでも 川の流れと『永』の字と】を面白く読ませていただきました。(港南区・渡辺)

★いたちかわらばん 94 号のご感想をいただきありがとうございます！今後ともご意見・ご感想をお待ちしています。

☆いたち川中流域の散策☆

天神橋上流の環境復元を目的とし人工的に造られた河川が周辺の環境に馴染んで来たか散策して確認して見ませんか！

日時：令和7年2月18日(火)
集合場所：栄区役所玄関前
集合時間：10:00
区役所裏口→いたち川プロムナード→天神橋→川辺の道→上耕地橋→小長谷橋(巡礼供養塔)→日東橋→ふるさとの川整備区間→扇橋(扇橋水辺)(トイレ休憩)→辺刈橋→稻荷森の水辺→青葉橋→中坊の水辺→桜井の水辺(昼食休憩)→バス停(解散)
*雨天中止。中止の場合は前日ご連絡いたします。

参加費：100円(保険料等)
持ち物：飲み物、雨具(昼食自由)
参加人数：20名(先着順)
参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで氏名・ふりがな・電話番号を明記の上、令和7年1月31日(金)までに下記に応募して下さい。(当日消印有効)
応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19
(電話)894-8161 (FAX)894-9127
(アドレス)sa-kikaku@city.yokohama.lg.jp
栄区役所区政推進課企画調整係

※内容については、和久井(いたち川OTASUKE隊 080-3498-0552)

発行年月
2024年12月

通刊 95 号

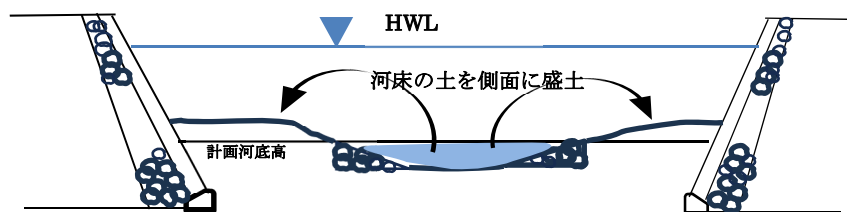
発行: 狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)
OTASUKE 隊事務局: 栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127
編集協力: 栄土木事務所下水道・公園係 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

いたち川の自然再生への試み (その2)

洪水対策のための治水工事として、いたち川橋から日東橋間3kmはコンクリートブロックによる2面張り区間として改修されました。川幅が広がったことで川底が平瀬化し、平常時は水深が浅く特に夏季には温度が上がり水の腐敗が進み、貧相な環境になりました。自然環境を復元するため、以下の工事を試みたようです。

●低水路工事

2面張り区間 低水路改良図



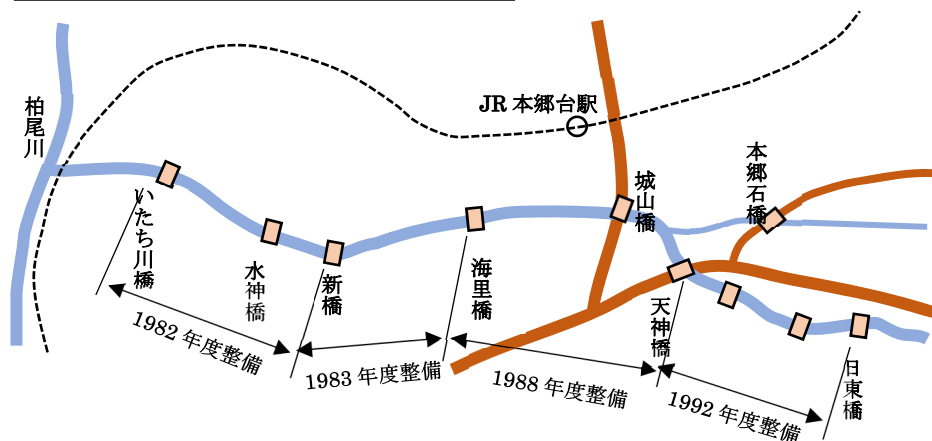
河川改修が完了した河川は、平常時は水深が浅くなり、夏季には温度が上がり、ユスリカの大量発生や、植生がなく流れが単調な排水路のような景観を呈していることが問題となりました。そこで、川底を掘って両側に掘削した土を盛って川幅を狭め、水深を確保し、水際は捨て石を置くことで植生が回復することを期待する工事が行われました。

●工事の基本方針は以下の通りです。

- *水際はコンクリートで固めない。
- *木杭や捨て石によって水の流れを速くするための瀬を形成する。
- *水の浄化は河川自身の自浄作用を増進させるように水際の変化が起こるように石や杭を配置する。
- *魚や昆虫の生息場所としての維持管理を行う。水際の植物は原則刈り取らず、伸びすぎたものだけの刈り取りを行い、季節時期によって昆虫や鳥の孵化の時期を配慮して管理をしていくこととした。

●低水路工事は河川の水質を改善するばかりではなく、市民の川に対する親しみを増すことが急務でした。当時の河川の水質悪化の原因である家庭排水の流入や、河川に投げ込まれるゴミ(不要家具や電化製品、動物の死骸等)を少なくするために、市民の親水対策として、水際に近付き水に触れ合うための階段を施工したのです。階段は全て下流に向けて設置して増水時に階段部を流れが遡上していかない構造となっています。

低水路工事の施工区間と施工年度



- いたち川橋から海里橋までは、河川改修完了した後に順次低水路整備を行っていきました。1982年・1983年に施工した区間は河床勾配が緩いため、河川を横断するような転石を水面下で行い、川底に変化を起こさせる構造箇所が設けられています。水際には大き目の石を設置して川全体が蛇行させる構造として流れの変化をつけています。
- 海里橋から天神橋間は河川がカーブしていることと合流部(右支川、左支川)があるため、低水路を設けない部分や巨石を使用しています。
- 天神橋から日東橋間は地質に変化があるため木杭や礫石などにより川べりに変化をつけています。

NHK朝ドラらんまんの植物(その4)

牧野富太郎博士の最終学歴は小学校2年で中退と言われていますが、富太郎はその聡明さが認められ教師となっています。

「牧野富太郎自叙伝」によると、10歳から寺子屋で習字を習い、11歳から「蘭林塾」で漢字、儒教を「名教館」で窮理学(現代でいう物理学のこと)、地理学、天文学、経済学を学び、英語学校で英語にも触れているようです。その後、学制改革が行われ小学校が設立され入学しましたが、授業のレベルに合わなかったため自主退学したようです。

「日本植物志図編」を26歳で自費出版していますが、この図版は写実性の植物図と異なり、部分図や解剖図を巧妙に1枚の図に書かれています。これらは、「高知県立牧野植物園」「練馬区立牧野記念庭園」「東京都立大牧野標本館」で閲覧ができます。

博士が命名した植物は多数ありますが、栄区内で確認できる植物を前号まで20種類紹介してきました。その他の植物として、神戸橋上流の岸壁に生えているイワタバコがあります。葉は苦味があり山菜料理や胃腸薬として利用されてきました。(栄区にあるのはケイワタバコです。)

セキショウ(石菖)は、いたち川水際に多く植栽され水際の浸食を守っています。本来は岩場に自生するショウブ科の植物です。ショウブ(菖蒲)は天神橋の下流の水辺に繁茂しています。一般的にショウブと言うと大輪の綺麗な花を連想されと思いますが、この植物はニオイショウブのことを指します。5月の節句で、お風呂に入れて菖蒲湯として使われることで有名です。血行促進、疲労回復に効果があると言われております。

ハナショウブ、カキツバタ、アヤメはすべてアヤメ科アヤメ族でショウブとは異種です。

庭園や街路樹に植栽されている樹木で常緑低木キョウチクトウ(夾竹桃)はインド原産で中国を經由して江戸時代に入ってきた樹木で、葉から根まで強力な毒成分があり少量でも摂取すると中毒症状を引き起こすので注意が必要です。牧野博士は明治14年に土佐で写生している記録があります。

(水・人・子)

高校生のホタル観賞

栄高校から栄区シニアクラブ連合会(以下、シニア連)に三代交流行事として学生のホタル観賞会を企画しているが協力してくれないか、という依頼がありました。シニア連の湯瀬会長は、かつて自クラブ内で何度かホタル観賞会を催した折に指導を受けたことがあるOTASUKE隊に協力・支援をお願いしてきました。

そこでOTASUKE隊からは和久井、生越がその任に当たり、高校側と数回の打合せを行って実施に至りました。

対象となる生徒は1年生全員で約200名:三世交代流行事というのは通常数名~10数名なのでこれは異例の多さになります。

ホタルの住み家である瀬上沢小川アメニティに一番近いところに位置する学校が栄高校ですからそこで学ぶ学生たちがホタルに親しむのは至極当然なことです。

否、むしろホタルを知らないまま卒業してしまうようなことがあれば非常識なことと言われかねません。

ホタルに接したことがない人々には自然観察の森で作成した紙芝居「ほくはゲンジボタル」を使って説明するのが手っ取り早い。紙芝居をスクリーン上に映写すればよからうと考えて提案したところ、高校生には幼稚すぎるから別のものにして欲しい」という注文が来ました。そこで和久井隊員が作成・編集したものに変わりました。

体育館に集まった校長先生以下200余名の生徒にスクリーンに映し出した映像を用いて計20分ほどの説明をしてからホタルの現場に向かいました。当日はホタル観賞日和とも言える雨・風の無い程よい天候でした。生徒たちは先生が率いて進み、湯瀬会長とOTASUKE隊2名のサポート隊はその先頭を進みました。15分弱で現場に到着すると既にホタル観賞の大勢の人々が集まっています。予想通り19時40分頃からホタルが出現し始め時間が経つと共にその数を増してきました。

栄高校の生徒・先生の願いが通じたのかこの夜のホタルは最大級と言ってもよいほど多かったのです。誠にラッキーなホタル観賞を無事に済ませて暗い夜道を学校まで戻って解散しました。瀬上沢のホタルさんたちよ有難うございました!



(ピンテール)